

教育委員会会議録

平成29年7月26日（水） 午後1時30分 開会

午後1時58分 閉会

1 議事日程

別紙のとおり

2 出席した委員等

平松直巳教育長、松本真理子委員、則竹伸也委員、廣美里委員、大須賀憲太委員
広沢憲治委員

3 説明のため出席した職員

後藤由紀夫事務局長、永井勇一次長兼管理部長、荻原哲哉学習教育部長
橋本礼子生涯学習スポーツ監、須田文清総合教育センター所長、横井英行総務課長
野村均教育企画課長、瀨瀬知行財務施設課長、稲垣直樹教職員課長
林一也福利課長、冨田正美生涯学習課長、柴田悦己高等学校教育課長
柵木智幸義務教育課長、北島淳特別支援教育課長、霊池恵量保健体育スポーツ課長
安井健治文化財保護室長、馬場茂インターハイ推進室長、黒沢正行健康学習室長
稲垣宏恭教育企画課主幹、小林整次教職員課主幹、都築孝明教職員課主幹
加藤文彦高等学校教育課主幹、宇都宮裕人教育企画課課長補佐

4 前回会議録の承認

平松教育長が各委員に諮り、前回の会議録は承認された。

5 教育長報告

- (1) 平成30年度愛知県公立学校教員採用選考試験第1次試験受験状況について
稲垣教職員課長が、平成30年度愛知県公立学校教員採用選考試験第1次試験
受験状況について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

- (2) 愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成29年度第2回）について

柴田高等学校教育課長が、愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議（平成
29年度第2回）について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

- (3) 平成30年度県立高等学校の学科・コースの新設・改編について

柴田高等学校教育課長が、平成30年度県立高等学校の学科・コースの新設・
改編について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(廣委員)

2 ページの 4 「コースの新設」について、国際理解コースと医療・看護コースは既設校があるが、卒業生はいるのか。

(柴田高等学校教育課長)

国際理解コースは、平成 13 年度から平成 22 年度までに実施した県立高校再編整備の中で設置しており、すでに卒業生は出ている。

医療・看護コースは、この 4 月に豊田高校に 1 回生が入学したばかりであるため、卒業生は出していない。

(廣委員)

資料を読むと、大学の様々な学部との連携が強くでている。大学教育の先取りを強く感じる。高等学校としてのキャリア教育、次の進路の中で、こういうコースを作ったことによって、より強化されるという保障はあるのか、また、教員の専門性をどのように反映していくのか。

(柴田高等学校教育課長)

まず、コースの新設にあたっては、現在どのような進路希望を持っている生徒が学んでいるかなど、生徒の状況等を把握した上で、学校と連絡を取り合いながら、生徒の学びや進路希望の達成などを後押しするようなコース設置を行っている。

2 つ目の教員の専門性についてであるが、例えば国際理解コースは、英語の教員を主体とした教育が可能であり、現在いる教員の力量で十分カバーできるが、医療・看護コースについては、医療・看護の専門家が正規教員にはいないため、外部人材を招き、教員とともにティームティーチングなどの形でタイアップをしながら実施することとしている。こうした中で、教員も学ぶことができ、コースの教育をより高いレベルで行っていくことができると考えている。

(松本委員)

大変魅力的で、コースの名前だけをみると、どこかの大学ではないかという印象を受けるくらいである。子どもたちには魅力的に映ると思うが、看板と中身がずれているとよくないかなと思う。例えば、外部人材の活用ということで、医療・看護コースであったら医療・看護専門の教員を新たに置いたり、特に教育コースの場合、教育の専門の人材を置いたりするなどは、考えているのか。若しくは、今ある人材の中で考えているのか。

(柴田高等学校教育課長)

教育コースで言えば、大学等から外部講師として招くことを予定している。教育の専門家としての高校教員自身が、外部との連携を深めながら、なおかつ小中学校との連携も深めながら、教員という職業に対する生徒のモチベーションを高めていくことが大切であると考えている。この目標が達せられるような教育を行っていくコースにしていきたいと考えている。

(松本委員)

今、いらっしゃる先生方がより能力を發揮できるような、そういうコース

を設定されているのだろうと思う。大学と連携することについても、いくつかのコースで書かれているが、私はとても賛成である。これが、まさに高大接続であると思う。高大接続というと大学に出前授業を依頼することを指しているような意識が強い気がしている。そうではなく、このコースを大学の人材を使って、子どもたちが将来社会で教育系の道に進むとか、医療・看護系に進むときのワンステップとなることが高大接続のまさに本質であると思う。こういうところで大学との連携をいかに作っていくか、これからの新しいチャレンジだと思う。ぜひ、がんばっていただきたい。

(4) 平成31年度愛知県公立高等学校入学者選抜におけるグループ分けの変更について

柴田高等学校教育課長が、平成31年度愛知県公立高等学校入学者選抜におけるグループ分けの変更について報告。

平松教育長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

6 議案

第22号議案 平成30年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法の基本方針及び基本事項について

柴田高等学校教育課長が、平成30年度愛知県公立高等学校入学者選抜方法の基本方針及び基本事項について請議。

平松教育長が各委員に諮り、全会一致により原案どおり可決された。

[委員の主な意見及び事務局の説明]

(松本委員)

確認だが、追試験はこの基本事項には、記載されないのか。

(柴田高等学校教育課長)

今後、この基本事項を受けて、実施要項を作成する。その中に、追試験について記載し、学校に周知をしていく。

7 協議題

なし

8 その他

なし

9 特記事項

(1) 平松教育長が今回の会議録署名人として則竹委員を指名した。

(2) 傍聴人 2名